



森林施業の省力化・低コスト化の推進



概要

○身体への負担が大きい植付けや下草刈り等の労働負担を軽減するため、コンテナ苗の活用やクリーンラーチの植栽、林業機械の導入等により、省力化・低コスト化につながる施業方法の実証・普及等に取り組めます。

コンテナ苗等の利用推進

- 植付けが容易なコンテナ苗を平成25年度から先導的に導入し、その利用を拡大。
- 現地の状況に応じて、下草刈りの年数を短縮できる成長の早いクリーンラーチやグイマツ雑種F1などの植栽を推進。

関連指標

○コンテナ苗利用本数



コンテナ苗植栽【上川北部】

■苗木植栽実績(過去5年間)

(千本)

区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5計画	
						()内はコンテナ苗	割合※1
カラマツ	123	264	406	431	497	422(106)	25%
グイマツ雑種F1※2	31	29	7	6	43	44(44)	100%
トドマツ	1,142	1,084	1,054	1,111	1,092	1,222(158)	13%
アカエゾマツ	381	324	183	87	38	97(50)	51%
スギ	13	14	14	15	-	-(-)	-
その他	117	97	143	112	191	166(-)	0%
計	1,807	1,812	1,807	1,762	1,861	1,951(358)	18%

※1:苗木全体に対するコンテナ苗の使用割合。

※2:「グイマツ雑種F1」は「クリーンラーチ」を含む。

森林施業の機械化

- 傾斜が緩やかな林地において、林業機械を導入し効率的な施業を行い、造林・保育作業の低コスト化・省力化を推進。特に、大型機械が林内を走行できる作業路を設け、地拵から下草刈りまでの一連の作業を行うことができるシステムを構築・普及。

■森林施業の施工方法別内訳(R4) (ha)

<地拵>

区分	人力地拵	機械地拵	計
面積	361	277	638
割合	57%	43%	100%

<下草刈り>

区分	人力下草刈り	機械下草刈り	計
面積	4,163	2	4,165
割合	99%	0.05%	100%



大型機械地拵

機械地拵に対して、
機械下草刈りが低迷。

・ 事業者の林業機械の導入を促進するため、計画的な事業の発注に努め、安定的な事業量を確保。

・ 上川南部・北部管理区において、省力化・低コスト化を図るため、グラップルレーキや小型のバックホウにクラッシャーを装着した機械での下草刈り作業を試験的に実施、検証。



機械下草刈り作業